

平成30年5月

臨時教育委員会会議録

十日町市教育委員会

平成30年5月臨時教育委員会会議録

1 開催日時、会場

平成30年5月18日（金） 16時45分～17時25分
市役所 3階 第3委員会室

2 出席

蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員

3 説明のため出席した者

子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山岸一朗）、生涯学習課長（鈴木規幸）、文化財課長（佐野誠市）、スポーツ振興課長（井川純宏）

4 教育長職務代理者の指名

蔵品教育長

- ・法律で教育長に事故があるとき、または教育長が欠けたときはあらかじめ決めた委員がその職を行うとある。合わせて、十日町市教育委員会会議規則第5条の規定により、教育長が職務代理者を指名するとある。については、職務代理者に吉楽委員を指名する。

吉楽委員

- ・教育長から職務代理者の指名を受諾する。合わせて、樋口子育て教育部長に事務委任する。

5 報告事項

- ・報告第1号 平成29年度十日町市立学校不登校等の状況について
- ・報告第2号 平成29年度学校給食地産地消率及び平成30年度の取組みについて

6 会議の内容

(1) 会議録署名委員の指名

署名委員：佐藤委員、吉楽委員

7 報告事項

① 報告第1号 十日町市市立学校の不登校の状況について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・小学校の不登校が増えたが、高学年ではなく1年から3年までに多いことは残念に思う。学校はどうとらえているのか。

山岸学校教育課長

- 今までにないパターンであり、ひとつひとつ要因について分析して対応するとしか言えない。15人の他にも学校へ来て保健室から教室へ行けない子どもなども増えている傾向にある。今ここで、小学校に力を入れなければいけないと危機感を持っている。昨年中学校で成果を上げたものについて、小学校でも頑張っていきたいと考えている。

庭野委員

- 私も教員であったが、現職最後の学校で不登校に関わった。少なくとも低学年の不登校はかなりの面で防げると思う。小学校の校長がどうとらえているか。対応の仕方でかなり解消できると思う。

吉楽委員

- 中学校3年生で不登校の生徒は、高校進学を希望しても学力が伴わない。社会的にも、将来の就職等のため高校に行きたいと生徒も保護者も考えている。たとえ小学校、中学校と不登校であっても、高校さえいければ良いという雰囲気を感じた。義務教育後に不登校の子どもの進路がどうなったかを把握していると、不登校の保護者に寄り添って、ある程度学力的な部分をサポートしてもらえるのではないか。

山岸学校教育課長

- 不登校の子どもたちだけを取り上げて統計などを取っていないが、中学校からは通信制や少し遠方の高校に通っているなどの情報はある。

庭野委員

- 中学校の校長会などに要望して、高校と中学校の連携を図って欲しい。不登校でも高校から新しく踏み出せるにはどうしたらいいかが大事だと思う。著名人にも不登校だったという人はいる。

山岸学校教育課長

- 中学校も以前よりは、卒業生の高校での様子が気になっている。高校でも中学校の様子が知りたいということで意識が高まり、情報交換しようとしている。

庭野委員

- 不登校の要因をみると、不安、情緒等の混乱が多い。それをどう解消するかは、学校を楽しくする、行きたくなる環境づくりをすること。家庭には入れないので、学校側が対応しないと減らないと思う。

山岸学校教育課長

- 2年前に不登校の子どもたちを細かく分析したが、それを一つ一つ手を打つより学校が楽しいとか自己有用感を高めるなど、学校に来やすくする方向に舵を切りつつある。個々の子どもに対応すること、日々の教育活動、子どもたちの居場所づくり、活躍する場面を作るということで進めている。

庭野委員

- 自分の経験で、不安が強い子を親が学校まで連れてきてくれるのだが、学校の外

の数百メートル先まで迎えに出た。その子は中学校では大丈夫だった。何か細かな工夫が必要かと思う。

佐藤委員

- ・小学校の1・2年生で、不登校になるということと、小学校6年生で不登校が2人だが中学校で10人となり、中2、中3と2桁でかなり多いのでショックである。地元の子で、中学校では教室に入れず保健室等にいたが、高校へ進学して普通に通っていた。その子は小学校では普通であったので、中学校の3年間でどういったものだったのかと思う。不登校の要因について、子どもはどうやって答えているのだろうと思う。

山岸学校教育課長

- ・不登校の要因の分析というのは、生徒が自らしているのではなく、担任から見た様子である。

吉楽委員

- ・上越市が児童虐待の状況を調査して新聞に掲載された。多いのは保育園児から小学生である。小学生は、学校の働きかけよりも家庭の影響が強いと思う。十日町市の虐待に関して数を把握することはあるのか。

山岸学校教育課長

- ・要保護児童対策地域協議会の担当課と緊密に連携している。不登校児童生徒に虐待の疑いがあるときにはすぐに確認の上、関係機関等に通報するなどの対応をとっている。

佐藤委員

- ・要因の無気力というのは、教師が生徒を見て判断したものとすると、教師が自分で生徒を無気力にさせていると感じていないのか。

庭野委員

- ・無気力にさせているのであれば、指導力が足りない。子どもが反応しないということではないか。

浅田委員

- ・学校ではフォローしてくれるが、卒業してしまうとフォローしてくれる窓口があるのか。

山岸学校教育課長

- ・発達支援センターでは中学校までであるが、市の他の機関が窓口になる。

蔵品教育長

- ・市では、支援を求めてきた方には対応できるが、そうでないと市から対応が難しいこともある。

庭野委員

- ・学校がもう少し家庭に踏み込んで行かないと件数が減らないと思う。

蔵品教育長

- ・地域の民生委員との連携もさらに図る必要がある。

(以上の質疑のあと了承された)

② 報告第2号 平成29年度学校給食地産地消率及び平成30年度の取組みについて

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑等なく了承された)

8 その他

(1) 平成30年度第1回十日町市総合教育会議について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

樋口子育て教育部長

- ・資料に基づき説明

(2) 次回の教育委員会の開催日時

6月定例教育委員会 6月26日(火) 15時00分から開催することに決定した。

以上で、17時25分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記